



# 新型コロナ感染症対策要望書への対応状況

北区自由民主党議員団は令和2年7月31日、「コロナウイルス感染症対策に関する要望書」を花川区長へ提出いたしました。その要望に対しての区の対応・経過状況についてご報告いたします。

## ●区内医療機関などへの支援

北区では区内医療機関に対し、感染症入院患者を受け入れた際の受入患者数に応じた財政支援やPCR検査室及び機器などの整備費補助、自院で検体採取を行う際の支援金交付などの独自助成を行っています。

今後も感染状況及び国や都の支援策を注視していきます。

## ●保健所機能の強化

現在は庁内からの応援や、人数が限られている医療系職種については外部からの派遣職員などを活用し対応しています。今後の人員体制については、現在実施している緊急対応の継続も含め、必要な人員の確保に努めます。

## ●GIGAスクールの着実な推進

令和3年度当初からの「1人1台端末」の環境稼働に向けて、約2万台の端末機の発注に関する契約締結手続きを進めています。

年度内に、区立全小中学校へ高速大容量通信ネットワーク環境の整備工事を行います。ハード面のみならず、学習面の展開、運用ルール等の検討や構築作業について、最大限に迅速に手続きを進めつつ、令和3年度からの1人1台端末の環境による教育が、着実に実践できるよう、準備を進めます。

## ●小中学校の児童・生徒への図書カードの配布

臨時休校による授業時数減少などで学習面に及ぼす影響を考慮し、家庭学習支援として図書カード配布を行います。

12月中に、北区在住の学齢児童生徒、合計20,600名を対象に1人あたり「図書カード(3,000円分)」を配布します。



## ●区内、中小企業などへの支援

飲食店の宅配サービスへの支援は現段階では予定しておりません。昨今の感染拡大により、依然飲食店は厳しい状況は続いており、動向を注視し、必要な支援策について引き続き検討していきたいと考えています。

また、キャッシュレス決済導入支援事業は、消費者の購買意欲が高まり、地域経済の活性化につながる取り組みと捉え、検討を始めた所です。今年度中に事業内容を固め、開始に向け準備を進めていく予定です。

# 渋沢栄一翁といえば北区!



## 2021年2月 23区初の大河ドラマ館 北区王子 飛鳥山にOPEN

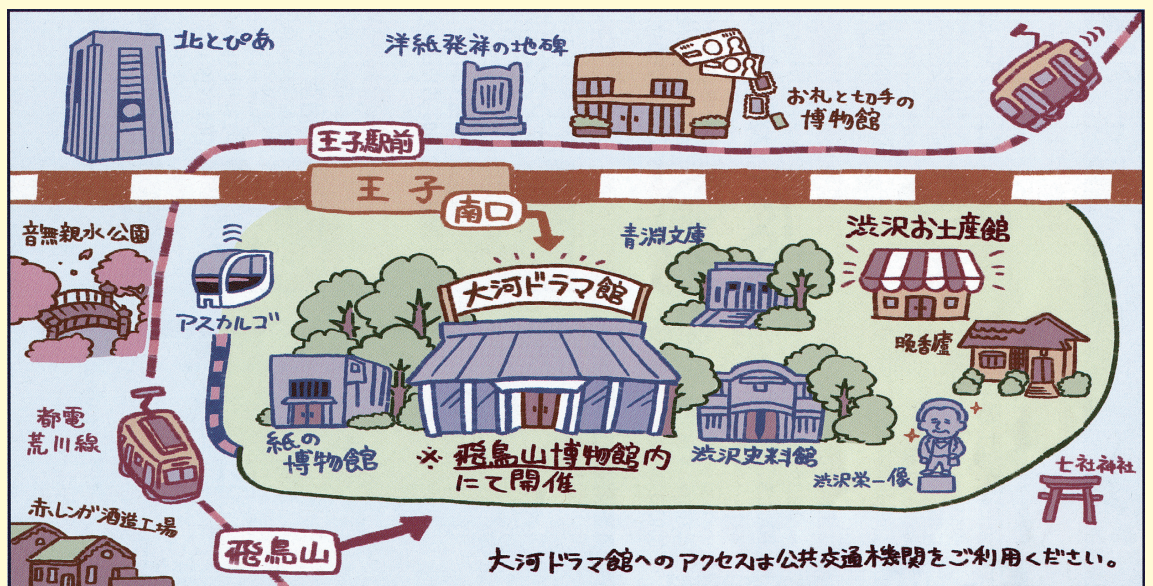
2024年の新一万円札の顔となる近代日本資本主義の父 渋沢栄一翁は、明治34年から昭和6年に亡くなるまで飛鳥山で暮らしました。

その渋沢栄一翁が主人公となる大河ドラマ「青天を衝け」が、2021年放送されます。渋沢翁ゆかりの北区をさらに盛り上げるべく、23区初の大河ドラマ館が、2021年2月20日、北区立飛鳥山博物館内に開館します。

また、隣接する渋沢資料館(完全予約制)では、社会福祉や教育の発展、民間

外交にも尽力した渋沢翁の人物への理解が深まります。そして、大河ドラマ館のある飛鳥山公園の一角にある旧渋沢庭園は、邸宅跡の一部ですが、現在も国の重要文化財として「晩香廬」と「青淵文庫」が残っており、渋沢翁が暮らした空間を感じられると思います。

そんな北区 飛鳥山に足を運んでみてはいかがでしょうか。



**紙の博物館** 渋沢翁が製紙業を開始した北区王子は洋紙発祥の地です。その他に設立された紙の博物館は世界でも数少ない紙専門の総合博物館です。

**渋沢史料館** 渋沢翁の活動を広く紹介しています。渋沢翁の生涯と実績に関する資料を収蔵・展示しています。

**青淵文庫(せいえんぶんこ)・晩香廬(ばんこうろ)** 飛鳥山に残る2つの重要文化財です。青淵文庫は渋沢翁の書庫として、また接客の場としても使用され、晩香廬は

国内外の来賓を迎えるレセプションルームとして使用されました。

**渋沢栄一像** 晩香廬を見渡すようにたたずむ、北区に残る唯一の渋沢翁の全身像。飛鳥山のインスタスポットです。

**アスカルゴ** 飛鳥山に登る日本一短いモノレール。カタツムリ(エスカルゴ)のように飛鳥山をゆっくり登る様から名前が付けられました。アナウンスは倍賞千恵子さんが担当しています。

東京23区初の大河ドラマ館が

飛鳥山に

渋沢×北区  
青天を衝け大河ドラマ館

開館日  
2021年初春

会場  
飛鳥山博物館内